



学内広報

No.1314

2005.5.25
東京大学広報委員会



UT Forum 2005 in China 小宮山総長の基調講演（2ページに関連記事）

CONTENTS

一般ニュース	2	掲示板	5
東京大学北京代表所の設置、UT Forum 2005 in China の開催、平成17年度「キャンパスツアー」スタート！		学術統合化プロジェクト設立シンポジウム開催のお知らせ、初心者水泳講習会の開催、第28回農学部公開セミナー、第10回史料編纂所史料学セミナー、データベース定期講習会のお知らせ、分野別データベース講習会のお知らせ	
部局ニュース	3	淡青評論 学期制度の改善提案	12
インドネシア国立公文書館館長の来訪、豊島近教授がNational Academy of Sciences 外国人会員に選出される、総合図書館の古時計復活なる			

研究協力部

東京大学北京代表所の設置

本学初の全学的海外拠点として北京市に設置準備を行っていた東京大学北京代表所が、4月13日（水）付けで、中華人民共和国政府の許可を得て、正式に登録された。北京代表所は、他の欧米、日本の大学とは異なり、中国で初めて中国政府の許可を得て、正式に登録された海外拠点であり、日中学术交流の「ワンストップサービス」の場としての活用が期待される。



北京代表所入り口

北京代表所の開所に伴い、4月27日（水）17時から、開所式が北京市新世紀日航飯店にて行われ、本学から、小宮山総長、桐野、西尾、古田各理事・副学長が出席したほか、北京大学、清華大学、中国科学院等の大学・学術研究機関関係者、北京市、天津市、南京市の政府関係者、大使館関係者、及び日中の報道機関等約80名が参加した。



開所式の様子

研究協力部

UT Forum 2005 in China の開催

4月28日（木）、29日（金）の両日、北京大学、清華大学、中国科学院において、UT Forum 2005 in China が開催された。本学は、国外の著名な大学において本学の優れた研究成果を報告するとともに、相手方大学との研究交流を通じて、本学の国際的プレゼンスを高めることを目的に、これまで、ボストン、シリコンバレー、シンガポール、スウェーデンにおいてUT Forumを開催してきており、今回が5回目となる。

今回のUT Forumは北京大学、清華大学、中国科学院の3ヶ所で開催された。各会場の概要は以下のとおり。

- ・北京大学「アジア的視野からの中国学」（4月28日（木））日中双方10名の研究者の発表が行われ、約180名の研究者、学生が参加。
- ・清華大学「Challenges in Material Science & Engineering」（4月28日（木））小宮山総長の基調講演、日中双方11名の研究者の発表が行われ、約80名の研究者、学生が参加。
- ・中国科学院「Microbial and Human Genomes: from pathogenesis to personalized medicine」（4月29日（金））桐野副学長等の基調講演、日中双方13名の研究者の発表が行われ、約160名の研究者、学生が参加。



桐野副学長の基調講演の様子

なお、UT Forumと同時開催の予定としていた学生フォーラムは、直前の反日デモの影響で延期となったが、希望参加した12名の学生は、それぞれのフォーラムに参加して、中国学生との交流も行い、学生にとっても有意義なフォーラムとなった。

また、4月29日（金）には、サテライトシンポジウムとして生産技術研究所が北京航空航天大学で「日中循環経済のためのサステイナブル材料戦略シンポジウム」を開催し、約150名の研究者、学生が参加した。

総務部

平成17年度「キャンパスツアー」スタート!

本学学生がツアーガイドとなって、赤門や大講堂（安田講堂）、三四郎池、総合図書館など、本郷キャンパス内の名所旧跡を案内する「キャンパスツアー」が今年も始まった。キャンパスツアーは昨年度から実施されており、「ジュニアTA制度」に基づき応募した学生が、東京大学の歴史や学生生活のエピソードを交えながら、約2時間にわたり案内する。

今年度のスタートとなった5月14日（土）には、午前、午後合わせて43人が参加し、ツアーガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。



広報センターについて説明するツアーガイドとそれを聞く参加者

ツアーには、高校生以上であれば誰でも無料で参加することができる。今後のツアーは、夏休みや年末年始、入試、学期末試験期間を除く授業期間の火曜日（10:00～12:00）と土曜日（10:00～12:00、13:30～15:30）に行われる予定で、参加には事前の申し込みが必要。

<キャンパスツアーHP>

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/b07_01_j.html



正門から大講堂に続く銀杏並木

史料編纂所

インドネシア国立公文書館館長の来訪

4月21日（木）午後、日本アーカイブズ学会での講演などのために来日中の、インドネシア国立公文書館（Arsip Nasional Republik Indonesia）ジョーコ・ウトモ（Djoko Utomo）館長が史料編纂所を訪問された。同公文書館は、インドネシアの現代に至るまでの歴史的文献及び非文献資料を所蔵するとともに、現代の諸官庁の文書を受け入れる中央文書館である。ジャカルタに拠点が置かれていたオランダ東インド会社・オランダ東インド政庁の史料を大量に保存し、史料編纂所はその中の日本と関わる史料の一部を蒐集させていただいた経緯がある。当日は、保立道久所長とアジアの史料、文書館、今後の学術的協力関係などの話題で懇談された。その後、特別収蔵庫を含む書庫、史料データベース、技術官による史料の修補・模写・影写の実技、史料編纂所の編纂物及び所蔵史料の小展示をご案内したところ、終始深い関心を示された。



懇談するジョーコ館長と保立所長



分子細胞生物学研究所
豊島近教授が National Academy of Sciences 外国人会員に選出される

5月3日（火）に開催された米国科学アカデミー第142回年次総会において、豊島近教授が、外国人メンバー（生理学薬学セクション）に選出された。

この米国科学アカデミーは、科学と工学に携わる優れた学者によって、科学の発展と社会への貢献のために組織された非営利団体であり、そのメンバーに選出されることは最高の名誉と考えられている。約2,000人の米国人と360人の外国人メンバーから構成されており、ノーベル賞受賞者も190人を越える。経済学、数学、物理学及び医学など31のセクションから成る。



米国科学アカデミー外国人メンバーに選出された
 豊島 近教授

附属図書館
総合図書館の古時計復活なる

現在の総合図書館は、関東大震災で前図書館が炎上壊滅した後、米国ロックフェラー財団からの寄贈を受けて、昭和3年12月に完成しました。この時計は、その3年後の昭和6年10月に、正面大階段を上った3階フロアに設置されたものです。

その後、昭和60年頃に行われたフロア改修により「お役御免」となり、現在に至るまでの約20年間、倉庫で眠っていたものです。

その大きさは、高さ290cm、幅80cm、奥行き49cmと非常に大柄なうえに、15分毎のチャイムと時報（ウエストミンスターチャイム）、ムーンフェイズ（月の満ち欠け）付き、という優れた特長を持ったドイツ製・重錘式のホールクロックです。

この時計の復活には、元館長の落合卓四郎先生も「自

分の研究費を使っても」と非常な熱意を持ち、これまで何度か挑戦してきました。しかし、適当な専門業者が見つからなかったこと、また部品の一部が欠けているということで、その都度断念してきました。

このたび、ようやく修理できる時計屋さん（松戸市：スズキ時計店）を探しあて、修理にこぎつけることができました。このスズキ時計店のご主人が修理の下見に来た折に、「これまで多くの古時計を修理してきましたが、このような大きな時計は初めてです」と、大いにやる気を示してくれましたので、早速、修理をお願いすることにしました。

この大きな古時計は、部品の亡失もあり完全復活には至りませんでした。時計の機能には全く支障なく、総合図書館の西口玄関に設置しました。永い眠りから覚めた古時計は、今現在、戸惑いながらも再び時をきざんでいます。

当館を訪れた際には、皆さんに是非この時計をご覧いただき、往時の姿と当時の総合図書館を偲んでいただければ幸いです。



古時計（総合図書館西口玄関）

領域創成プロジェクト 学術統合化プロジェクト設立シンポジウム開催のお知らせ

シンポジウム・講演会

本年4月からスタートした領域創成プロジェクトの中の一つである学術統合化プロジェクトの設立シンポジウムを6月6日(月)に開催いたします。

日時：6月6日(月) 14:00～17:00

場所：山上会館大会議室(2階)

<プログラム>

司会：桐野 豊(理事・副学長)

14:00～14:25

「学術統合化プロジェクトについて」

小宮山 宏(総長)

14:25～14:50

「学術統合化プロジェクト(ヒト)の目指すもの」

高木 利久(新領域創成科学研究科/総括プロジェクト機構)

14:50～15:25

招待講演「脳科学におけるボトムアップとトップダウンの接点：シナプス可塑性シミュレーション」

黒田 真也(情報理工学系研究科)

15:25～15:45 休憩

15:45～16:10

「生命知識の共有・探索・統合の基盤構築」

Steven Kraines(総括プロジェクト機構)

16:10～16:35

「ヒト神経系マルチスケールシミュレーション」

大武 美保子(総括プロジェクト機構/科学技術振興機構・さきがけ)

16:35～17:00

「個体間コミュニケーションの数理モデルとシミュレーション」

牧野 貴樹(生産技術研究所)

17:30～ 懇親会(会場：山上会館 地下1階食堂にて)

シンポジウムは、事前登録および参加費は不要です。当日直接会場にお越しください。

「学術統合化プロジェクト」については、ホームページ(<http://www.scint.jp>)をご覧ください。

(問い合わせ)

学術統合化プロジェクト(ヒト)

TEL：04-7136-3982

FAX：04-7136-3975

MAIL：scint@cb.k.u-tokyo.ac.jp

「噴水」「窓」のコーナーにご意見を

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただく欄として「噴水」、東京大学と社会との連携・協力情報を紹介するための欄として「窓」が設けられています。これらの欄への投書要領は次のとおりです。

「噴水」

- 1 本学における教育・研究活動等に関する意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

「窓」

「東京大学とその周辺地域の歴史」、「学外機関より本学構成員への表彰」、「学外の方からの東京大学に関する意見」など、東京大学と社会との関係に関する情報であること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

学生部 初心者水泳講習会の開催

お知らせ

暑い夏のシーズンが近づいてきました。「今年こそは海に、プールに行ってみたいけれど、泳げない・・・」そのように悩んでいる方はいらっしゃいませんか？

大丈夫、まだ間に合います。本郷構内の『御殿下記念館』で短期集中式の水泳講習会が開催されます。本学教職員からなる水泳同好会（日本水泳連盟公認指導員）の講師陣が、初心者の方を対象に懇切丁寧に指導します。

講習会の日程等は下記のとおりとなっていますので、この機会に是非泳げるようトライしてみてください。

1. 日 時：6月14日（火）、16日（木）、17日（金）
21日（火）、23日（木）、24日（金）
計6日間
各日とも18:00～19:30（1時間30分）
2. 場 所：御殿下記念館プール
3. 対 象：本学学生・教職員
〔初心者（全く泳げない）、初級者（息継ぎができない）に限ります〕
4. 定 員：20名（定員になり次第締め切ります）
5. 受講料：500円（6回分）
6. 受 付：6月1日（水）9:30より
御殿下記念館モール階 運動会受付
7. 説明会：6月10日（金）18:00～18:20
御殿下記念館第一研修室（記念館入口の右隣）
8. 講 師：東京大学水泳同好会（日本水泳連盟公認指導員）
9. その他：問い合わせは、学生部学生課体育チーム
（内線：22509～22511）まで

大学院農学生命科学研究科・農学部 第28回農学部公開セミナー

シンポジウム・講演会

大学院農学生命科学研究科・農学部では、以下の要領でセミナーを開催します。

無料で、どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしております。

第28回 東京大学農学部公開セミナー 「アグリバイオインフォマティクス —農学の新たな展開—」

司 会：アグリバイオインフォマティクス
人材養成ユニット 中井 雄治 助教授

「アグリバイオインフォマティクスとは？」

—食品科学研究を例として—

応用生命化学専攻 阿部 啓子 教授

「カイコのゲノム情報解読」

生産・環境生物学専攻 嶋田 透 教授

「ダイオキシン分解酵素はつくられるか」

—アグリバイオインフォマティクスの挑戦—

生物生産工学研究センター 野尻 秀昭 助教授

日 時 6月18日（土）13:30～16:30

場 所 農学部 弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1

地下鉄南北線「東大前」下車 徒歩1分

地下鉄千代田線「根津」下車 徒歩7分

対 象 一般（どなたでも参加できます）

定 員 300名（当日先着順）

参 加 費 無 料

問 合 せ 先 農学系総務課 広報情報処理係

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

電話 03-5841-5484、8179

mail koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

主 催 大学院農学生命科学研究科・農学部

共 催 （財）農学会

史料編纂所

第10回史料編纂所史料学セミナー

シンポジウム・講演会

本年度の史料学セミナーは、史料編纂所が研究・編纂・出版の対象としている史料群を素材に、「史料群からみる史料学（Ⅱ）」をテーマに開催します（事前申込制）。

【会場】 史料編纂所

【講義日程】（毎回13:30～16:50）

第1回 10月1日（土）

中藤靖之・高島晶彦

文化財保存修理の現状―「実隆公記」「高倉家史料」等の修理と材料・道具から―

山口英男

「正倉院文書」の調査と史料編纂所

第2回 10月15日（土）

本郷恵子

「薩戒記」にみる公家日記の書写と伝播

高橋敏子

「東寺文書」編纂のあゆみ

第3回 10月29日（土）

保立道久

「大徳寺文書」の箱について

田中博美

本所所蔵の禅籍貴重書―「蔭涼軒日録残簡」を中心に―

第4回 11月12日（土）

近藤成一

島津家文書「歴代亀鑑」について

山本博文

「島津家文書」の構成について

第5回 11月26日（土）

佐藤孝之

江戸幕府普請役「田村家文書」の構成

保谷 徹

在外史料からみる幕末史―本所収集の外国史料群―

※ 講義概要は史料編纂所ホームページ（URL: <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>）をご覧ください。なお、第4回は、11月18日（金）・19日（土）に開催される史料編纂所史料展覧会と関連した内容です。

【募集要項】

募集対象 日本史学を専攻する大学院生・学生、史料・図書を扱う仕事や歴史教育に従事されている方。

* 日本史を専攻する留学生（大学院生）、及び外国人研究者の応募もお待ちしております。

募集人員 約30名（応募者多数の場合は抽選）

応募締切 7月6日（水）

応募方法 はがきに住所、氏名、電話番号、職業または所属・学年を記し、下記の申込先までお送りください（期限内必着）。

受講料 7,200円（全10講分）

申込先 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学史料編纂所事務部庶務係
電話 03-5841-5943・5944

原稿募集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えめにしてください。）
- ・写真には、キャプション（説明文）を添えてくださるようお願いします。

送付先 東京大学総務部広報課

TEL：03-3811-3393 内線：82032、22031

FAX：03-3816-3913

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は各月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合を除きます。

平成17年度の学内広報の発行スケジュール
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html

情報基盤センター データベース定期講習会のお知らせ

お知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース定期講習会を実施します。

データベースを利用した最新の文献調査方法に関する講習会です。パソコンを使った実習を中心にを行います。どうぞお気軽にご参加ください。

また、ネイティブスピーカーの講師による英語編も好評実施中です。留学生の方のご参加もお待ちしております。

●会場

総合図書館 1階メディアプラザ I 講習会コーナー

●時間帯

11:00～12:00、15:00～16:00、17:00～18:00

●定員 12名（先着順）

●各コースの内容

コース名	内 容
入門編 Introductory Course	授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。 OPACなど基本的なデータベースを使った実習を中心に、効率的な文献の探し方を紹介します。
FELIX 編	雑誌記事索引、SwetScan、PCIの3つのデータベースが統合検索できる目次情報検索システムFELIXを用いて、文献を調査し入手するまでの方法を検索実習を行いながら紹介します。
Web of Science 編	引用索引データベースWeb of Science の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
電子ジャーナル 編 Electronic Journals	基本的な電子ジャーナルの利用方法、利用上の注意点から代表的な出版社の電子ジャーナルシステムを用いた効率的な文献検索方法まで実践演習を行いながら紹介します。

●参加方法

参加予約は不要です。ご都合の良い時間帯を選んで、開始時間までに会場に直接お越し下さい。

上記講習会に関する詳細は、ホームページ
(<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>)
をご覧ください。

ネイティブスピーカーの講師による英語編の講習会
(English session) のスケジュールは、決定次第、上記
のホームページでお知らせします。

また、情報基盤センターではデータベース定期講習会
の他、授業やゼミにお伺いする出張講習会や、1名から
申込可能な個人向け講習会を実施しております。どちら
も受講者の方のご要望に応じた内容で行いますのでぜひ
ご活用ください。

●問い合わせ先 学術情報リテラシー係 (22649)
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

●スケジュール（6～8月）

月	火	水	木	金
		6/1	6/2	6/3 17:00-18:00 FELIX
6/6	6/7 15:00-16:00 Web of Science	6/8	6/9 17:00-18:00 電子ジャーナル	6/10
6/13 15:00-16:00 入門	6/14	6/15 15:00-16:00 FELIX	6/16	6/17
6/20 17:00-18:00 Web of Science	6/21 11:00-12:00 電子ジャーナル	6/22	6/23	6/24
6/27	6/28	6/29 17:00-18:00 入門	6/30 11:00-12:00 FELIX	7/1
7/4	7/5	7/6 17:00-18:00 Web of Science	7/7	7/8 11:00-12:00 電子ジャーナル
7/11 11:00-12:00 FELIX	7/12	7/13	7/14 11:00-12:00 入門	7/15
7/18	7/19	7/20 15:00-16:00 電子ジャーナル	7/21	7/22 11:00-12:00 Web of Science
7/25	7/26 15:00-16:00 FELIX	7/27	7/28	7/29
8/1	8/2	8/3	8/4	8/5 15:00-16:00 入門
8/8	8/9	8/10	8/11 15:00-16:00 Web of Science	8/12
8/15 15:00-16:00 電子ジャーナル	8/16	8/17	8/18	8/19
8/22	8/23 11:00-12:00 入門	8/24	8/25	8/26
8/29	8/30	8/31 11:00-12:00 FELIX		

情報基盤センター 分野別データベース講習会のお知らせ

お知らせ

情報基盤センターでは、分野別のデータベース利用講習会を実施します。人文社会科学系・自然科学系の代表的なデータベースを対象に、各データベースの提供元から講師を招き、実際にパソコンを操作していただきながら検索実習形式で行います。

効率的な文献調査のコツを手に入れるチャンスですので、ぜひふるってご参加ください。

●会場 総合図書館1階 講習会コーナー

●定員 12名

●参加方法

以下のサイトの申込フォームにてお申込ください。

なお、定員に達し次第締め切らせていただきますのでご了承ください。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/news/db200506.html>

●対象データベース

<人文社会科学系データベース>

ASSIA－社会学

応用社会科学全般の学術雑誌の索引・抄録のデータベース。LLBAと統合検索可能。

Linguistics and Language Behavior Abstracts

(LLBA)－言語学

言語学と言語行動に関する文献データベース。ASSIAと統合検索可能。

EBSCOhost (EBSCO)－経済・経営学

経済・経営・ビジネス関係のデータベース、EconLit, Business Source Elite, Regional Business Newsを掲載する検索システム。

MC－統計－統計データ

各省庁、地方自治体が発表する「地域統計」「経済動向統計」データの検索・閲覧・加工・分析ツール。

LexisNexis Academic－ニュース記事・企業情報

世界各国の新聞・雑誌などの一般ニュース、企業プロフィール・財務情報、法律情報、医薬ジャーナルを網

羅した総合情報データベース。

Lexis.com－法学

世界各国の法令・判例・ローレビュー・特許・その他法律関連文献を収録。

Literature Resource Center with MLA (LRC)－文学

文学関連の総合レファレンスデータベース。作家情報・作品解説・文学的評論を収録。

InfoTrac Customs－人文社会科学全般

利用度の高い人文社会科学学術雑誌250タイトルのフルテキストデータベース。

<自然科学系データベース>

GeoRef－地球科学

American Geological Institute (AGI) が提供する地球科学関連の文献データベース。

ScienceDirect－自然科学全般

Elsevier社が提供する科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナルシステム。

Engineering Village 2 (EV2)－工学・物理学

理工学分野の2大データベースCompendexとINSPEC等を搭載した検索ツール。

SpringerLINK－医学・科学技術

総合科学出版社Springerグループが提供する医学・生命科学・数学・科学技術分野の電子ジャーナル・電子ブックサービス。

Wiley InterScience－医学・科学技術

米国のJohn Wiley & Sons社が提供する医学・化学・生命科学・科学技術分野の電子ジャーナル・電子ブックサービス。

ProQuest Agricola plus text (ProQuest)－農学

農業・ライフサイエンス関連の書誌情報データベースAgricolaの一部収録論文をフルテキストで提供。

●問い合わせ先 学術情報リテラシー係 (22649)
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

●スケジュール（網掛けは自然科学系データベース）

月	火	水	木	金
5/30	5/31	6/1 13:30-15:00 ASSIA/LLBA 15:00-16:30 GeoRef	6/2	6/3
6/6 10:30-12:00 ScienceDirect 13:30-15:00 EV2	6/7	6/8	6/9 13:30-15:00 Springer LINK	6/10
6/13	6/14 15:30-17:00 Wiley InterScience	6/15	6/16 13:30-15:00 EBSCO 15:30-17:00 ProQuest	6/17
6/20	6/21 15:00-16:30 MC-統計	6/22 14:00-15:00 LexisNexis Academic 15:30-17:00 Lexis.com	6/23	6/24
6/27	6/28 13:30-14:30 LRC 14:30-15:30 InfoTrac	6/29	6/30	



学期制度の改善提案 —卒業見込みでは次へ進ませない制度の必要性—

最近、大学の法人化を始め、世の中構造改革と称して、明治以来の我が国の仕組みの変革が様々行われている。成功したものもあれば、検討を要するものなどあるが、大学に身をおく人間として、今すぐにでも提案したいのが、大学の学期の変更である。秋入学、夏休み前に卒業に改めることである。グローバルスタンダードというならば、世界中のほとんどの大学で採用されているこの仕組みは有用であろう。

この提案は、単に欧米模倣や形式的な形の提案をしているのではない。本質的に、3月卒業、4月入学では卒業から入学までの期間が足りないという弊害を解消したい、ということからである。よって、もし日本固有文化として4月入学にこだわるならば、12月卒業にしてもよい。ただ、明治時代には、東大も7月卒業、9月入学であったというし、幸い工学系の大学院は、



既に10月入学制度を運用しているので、比較的容易に実行できると思われる。しかも、東大が率先して実行することが望ましいと考えている。

その本質的理由は、次のステップに進むには、現在のステップのケジメをつけて、その評価を活用すべきだからである。大学院入試は、卒業成績と卒業論文の審査ですむ。就職活動が修士1年から始まる弊害は説明する必要もないが、

本来は在学中の成績と修士論文を持って、就職活動をするべきである。考えれば、就職から始まり、果ては、大学、高校、中学、小学校の入学まですべて、卒業見込みの状態で最終的な評価の前に、入学や入社を選抜をする制度を日本は採用している。だからこそ、最終チェックが伴わず、教育成果が

必ずしも期待通りにならず、物事の本質を理解しない習慣を生み出しているのではないだろうか。

このことは、公共事業ではないのに公共交通と呼ばれる鉄道、集めるのは複数年度なのに執行は単年度の税制、これらが我が国特有の制度であるひとつの理由ではないだろうか。

須田 義大 (生産技術研究所)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[変更]

「学内広報No.1312 (2005.4.27)」掲載の記事について、内容に一部変更が生じたので、お知らせします。

21ページ右段11行目

(変更前) 公開セミナー「関野貞アジア踏査」開催のお知らせ

→ (変更後) 公開講座「関野貞アジア踏査」開催のお知らせ

22ページ左段2行目

(変更前) 公開セミナー → (変更後) 公開講座

22ページ左段26行目

(変更前) 7月9日(土) → (変更後) 7月23日(土)

22ページ右段4行目

(変更前) 高句麗古墳壁画まで → (変更後) 高句麗古墳壁画へ

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1314 2005年5月25日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393

e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO